

理事長所信

一般社団法人伊勢青年会議所 2020年度

第六十四代理事長 野口 貴史

はじめに

我々の所属するこの一般社団法人伊勢青年会議所は、高度経済成長期真っ只中の1957年にこの伊勢のまちを愛し、そしてこの伊勢のまちをより発展充実させていこうと考え行動する志し高き先輩諸兄により全国で110番目の青年会議所として創設された。63年もの永きに渡る間、業種や環境の違う多種多様な青年が集い、明るい豊かな社会の実現を目指し真剣にこのまちと向き合い続け運動を展開してきた。改めてこの伊勢青年会議所を連綿と紡いで来られた先輩諸兄に敬意と感謝を表したい。

理想の会員像と拡大活動

青年会議所が創設されて以来、これまでの間変わらず恒久的におこなわれてきた活動がある。それは会員拡大活動である。青年会議所は会員がいなければなにもできない。逆を言えば会員が増えれば増えるほど運動の幅も広げていくことができるし、自分自身のコネクションの幅も広げていくことができる。我々の活動に関心を持ち、活動を共にしてくれる同志を募るためには、まず自分自身が魅力的な青年経済人であらねばならない。我々はJeyceeである以前に一企業や組織の中核を担う青年経済人である。日々、所属する企業や組織のためにひた走り、そしてかけがえのない自身の家族にこの上ない愛情を注ぐ、その姿を対象者に感じさせることができなければ、これからの時代に会員を拡大することは難しいと考える。しっかりと芯を持ち、自らが所属する企業や組織、愛すべき家族に真正面から対峙する、そんな会員が今の時代には求められている。

今、必要とされる会員の絆

青年会議所の会員数は年々減少の一途を辿っている。我々の所属する伊勢青年会議所も例外ではない。会員数が減少傾向にある今だからこそ伊勢青年会議所全会員が一枚岩となって、この局面を切り抜けていかなければならない。そのためには会員間の友情が必要不可欠であり、それは会員同士の濃密な交流に他ならない。多種多様な業種の集うこの組織において、互いに接して交流することでしか得られない知識や経験を身に付ける機会を持ち、交流を通じてお互いを信頼し合い、強い結束を持った関係性を構築するべきである。そうすることは個人としてのコミュニケーション力を養うことにも繋がり、様々な条件の下、人と人との関係性が希薄になった現代社会において、市民や子どもたちにその能力を遺憾なく伝播させ我々が目指す明るい豊かな社会の実現の一助とすることができる。つまり会員同士の絆を構築させることは、個人のスキルアップだけではなく、自分自身の身の回りの人々、そして我々が住まうこのまちを豊かなものにさせることに繋がる。

今、求められる組織運営

様々な方面で様々な顔を持つ我々は、常に時間と闘っている。そのなかでも本年も変わることなく明るい豊かな社会の実現という理想を掲げ、その目標を遂行するためにその歩を止めるわけにはいかない。そのためには組織運営の簡略化ではなく、効率化が求められている。現代社会に合致した組織運営の在り方、そして定款、運営規定を含む諸規定を今一度見直しつつも、これからも変わらずこの地域の人々から信頼を得ていくことは至極必要なことであることは間違いない。これからも我々の住まう地域の人々に我々の運動を発信し続けることで、更なる信頼を得て、伊勢青年会議所がこのまちに存在し続けている意味を地域の人々に認知していただきたい。

おわりに

翌年に伊勢青年会議所創設65周年を迎える本年は、来る創設65周年のために潤沢な会員数の増加と個々のスキルアップ、そしてそれを下支えする盤石な組織の基盤を作り出し、それに備えるための非常に重要な一年になる。青年会議所という重荷にも似たこの組織に席を置く我々であるが、全会員誰一人と取り残すことなく皆が手を取り合い、そして自身に少しだけ負荷を与え邁進することで、必ず個人の能力が飛躍的に向上することは約束されている。今一度、自分自身がなぜこの青年会議所に所属しているのかを問うていただき、自身の立ち位置を確認し自身の責務を全うしていただきたい。そうすることで辛く険しい青年会議所活動のその先に新しい自分と出会えることが出来るはずである。それは組織を内部から光輝かせ、地域を明るく照らし出すことに繋がり、地域の人々がお互いを思いやり助け合うことのできるまちへとなるだろう。